

県南部で葉いもちの初発が確認され、すでに坪状に拡大している所があります。

早期発見に努め、防除対策を講じましょう。

現在の状況

- 1 巡回調査では、県南部において、7月2日に2圃場、7月5日に1圃場で葉いもちの本田発生を確認した（7月5日現在、写真1、2）。1圃場では、葉色が濃い箇所を中心に坪状に発生が拡大している。
- 2 葉いもちの感染好適条件は、全県的に繰り返し出現しており、今後、広域的な葉いもちの発生が懸念される（表1）。
- 3 向こう1か月（7月3日～8月2日）の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みであり、今後も葉いもちの発生が懸念される。

防除対策

- 1 葉いもち予防粒剤（箱施用剤、水面施用剤、投げ込み施用剤）を施用した圃場でも発生していることから、圃場をよく観察し、発生を確認したら直ちに茎葉散布を行う。日当たりの悪い圃場や、葉いもち予防粒剤の施用が遅れた圃場では、特に注意する。
- 2 葉いもち予防粒剤を施用していない場合は、圃場をよく観察し、葉いもちの発生を確認したら直ちに茎葉散布を行う。その後も、発生状況に応じて7～10日毎に追加防除を行う。
- 3 穂いもち予防粒剤の施用を予定している場合でも、葉いもちの発生が見られるところでは、粒剤施用の前に葉いもちを対象に茎葉散布を実施する。



写真1 確認された葉いもち①
(下位葉にみられた慢性型病斑)



写真2 確認された葉いもち②
(上位葉にみられた急性型病斑)

